

推量の表現について

今回の号では少し趣向を変えて、推量表現について扱います。推量とは、「～だ」と断言する自信がない時に「～だろう」とか「～かもしれない」などと想像して言う表現です。初級の文法を終えたぐらいの学習者の方には特に気になるテーマではないでしょうか。

推量を表現するにはいくつかの手段がありますが、まずは動詞活用に注目してみましょう。未来形を習った際に用法として「推量」が出てきたことを思い出してください。

Mañana Javier **estará en Barcelona.**

明日ハビエルはバルセロナに**いる**だろう。(未来)

Ahora Javier **estará en Barcelona.**

今ハビエルはバルセロナに**いる**だろう。(現在の推量)

日本語の「～だろう」も実はスペイン語と同じで「未来」と「現在の推量」の意味があるので、日本語に訳してもよくわかりません。しかし、前者は時間的に未来のことを言っていて、後者は今(つまり、現在)のことを推量して言っています。つまり「未来形」だからと言って必ずしも未来のことを表すとは限らないのです。ですから、文法用語では「未来形」が定着していますが、むしろ「推量形」の方がふさわしいと考える研究者もいます(筆者もその一人です)。

もう一つの推量を表す動詞の活用形は接続法です。これは時制とは違う「法」という概念なのですが、後で見ると単独ではなく推量の副詞や表現とともに使います。

それでは次に、推量を表す副詞を見ていきましょう。

probablemente, posiblemente, quizá, tal vez

などがそうです。

Posiblemente Carmen **está de viaje.**

たぶんカルメンは**旅行中**でしょう。

posiblementeは現在形以外に未来形や接続法とも使われます。

Posiblemente Carmen **estará de viaje.**

Posiblemente Carmen **esté de viaje.**

動詞の形を変えることによって可能性の度合いが変わります。

接続法 (**esté**) — 未来 (**estará**) — 現在 (**está**)

可能性: 低い ← → 高い

ネイティブスピーカーの語感では、**probablemente**の方が**posiblemente**よりやや確立が高いようです。

一方、**quizá**や**tal vez**は**posiblemente**や**probablemente**よりも更に実現の可能性が低い推量を表します。

Quizá **esté enfermo Juan.**

フアンは**病気**なのかも知れません。

Quizáの場合も直接法現在には使われますが、接続法の方がよく使われるようです。もちろん接続法を使った方が可能性が低いというニュアンスになります。よく教科書や参考書で、**quizá**や**tal vez**の訳として「たぶん」、「おそらく」を見かけますが、「かもしれない」の方がよいと思います。「たぶん」だと70%程度の確率を感じますが、**quizá**はせいぜい半々かそれ以下のことを言うそう

です。因みに**quizá**の語源はラテン語のQui sapit?(スペイン語では、¿Quién sabe?)だと言われています。つまり、「誰が知っているか? → 知らない」です。疑惑の副詞と呼ばれるゆえんです。

ここまで見た副詞をまとめると以下のようになります。

quizá — posiblemente — probablemente (tal vez)

可能性: 低い ← → 高い

では、ここまで見てきた動詞の活用形と副詞の使用を組み合わせさせた例を見てみましょう。

Ella **está enfadada conmigo.**

Probablemente ella **está enfadada conmigo.**

Posiblemente ella **estará enfadada conmigo.**

Quizá ella **esté enfadada conmigo.**

上から下に行くに従って可能性が低くなっているでしょう。実際にはもっといろいろな組み合わせがありますし、ネイティブの話者でも感じ方が異なるようです。

また、やや口語的な表現で「**a lo mejor**」という語句がありますが、なぜか直接法しか使われません。

A lo mejor me **toca la beca para estudiar en México.**

メキシコで勉強する奨学金がもらえるかもしれない。

その他にも、「**Es probable que + 接続法**」、「**Es posible que + 接続法**」、「**Puede que + 接続法**」(「**Puede + 不定詞**」)などなどいろいろな表現がありますが、キリがないので今回はこのへんで。

それでは最後に、確信を持って断言する表現にはどんなものがあるのでしょうか。一部を紹介します。

No cabe duda de que el Barça ganará el campeonato de este año.

バルサが今年の選手権で勝つことは疑いない。

Con toda seguridad Japón se recuperará de este desastre natural, aunque llevará tiempo.

時間はかかるだろうが、間違いなく日本はこの自然災害から立ち直るだろう。

それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!

仲井邦佳



仲井 邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(共著、第三書房)、

『中級スペイン語一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。